

今回スウェーデンの歯科医療のあり方・日本との違い、多くのことを学ばせてもらったが、一番大事なのはやはりそこにある哲学。どんなに正しくてベストなやり方を学んでもその意味を理解しなければ意味がない。なぜスウェーデンはここまで変わったのか？国が取り組んでいること・歯科医師や衛生士が考えていることは？全てにおいてその根源にあるのが、“患者の口腔内を健康な状態で維持する”ということ。今回学んだ違いや仕組みを医院に持ち帰り取り組んで、最初はうまくいくかもしれないが組織としてのただのルールになってしまえば何の意味もないことを改めて強く感じた。研修を受けるにあたり、1日1日、日本に帰って佐々木歯科に戻ってどう活かそう？どう取り入れよう？そんなことを考えていたが、最終的にはやり方の問題ではないと感じた。

あくまで、スウェーデンで行われている歯科医療は、健康維持するための手段であり、それを実践するためにどうするか、目的として考えてはいけない。

9月からメンテナンスの自費化に取り組むため今準備期間だが、その時と全く同じだった。

自費メンテナンスを提供するためには何が必要か？どうしたらいいか、先に考えてしまったが、あの時も最後には、自費メンテナンスの提供はあくまで患者さんの健康維持のための手段であり、私たちの目的でも、患者さんにとってのゴールでもないことに気づいた。

どうしても自分たちが行動しようとしていることを目標や、ゴールとして捉えてしまいがちなので気をつけたい。何に取り組むにしても、あくまで手段。取り組むことが大切だと思わないように常に自分自身の中に強い信念を持ち続けたい。主役は患者さん。

患者さんが健康な口腔内を維持し続けることで、生活の質は上がっていくし、その結果 OP 診療所の私たちも歯科医療に対してもっともっとやりがいを感じられ、winwin の関係が途切れることなく続いていく。

やはりこの仕事はどんな仕事よりも素敵だ。ゴールがない。

研修で感じたことを医院に持ち帰り今後の活動の仕方を考えていたけれど、もっと広い視野で考えないといつまでたっても日本の歯科医療が変わらない。佐々木歯科のスタッフとしてやれることを考えるのではなく、一人の衛生士として、何ができるか・何をしたいかを考えて行動し続けていきたいと思う。頑張る人だけ、頑張る医院だけ、ではなく OP 診療所のスタッフ一人ひとりが本気で取り組み、医院を変え、地域を変え、日本を変えていく。そうでなければ今回の研修は意味がないと思う。スウェーデンでの取り組みを肌で感じ、素晴らしい講師の方々の哲学に触れることができ本当に幸せな時間だった。そして、今回参加した歯科医師・歯科衛生さんたちとの出逢いも私にとって素晴らしい財産。出逢いは人を強くする。同じ時間を過ごし、同じ哲学に触れ、やり方はそれぞれ医院の色があるが、見ている方向はみんな一緒・ただ一つ。参加している先生、衛生士さん、どなたと話をしても、会話の中に“患者さんの健康を維持するため”という思いを感じることができとてもワクワクした。私たちは良い意味で競争をすることができるが、決してライバルにはならない。お互いが刺激しあい、成長することのできる仲間・チーム。予防歯科という言葉が普及しているが、そもそも自分たちがしていることは“予防歯科”という一つのジャンルではない。歯科医療の本来の姿・あるべき姿である。真の歯科医療を患者さんに知ってもらうにはまず私たち側、歯科医療従事者一人ひとりが本物になっていかなければいけない。自分の人生をかけて、とは大げさかもしれないが、私の力が少しでも多くの患者さん、同じ歯科医療従事者にとって役に立つことがあればやれることはなんでもしよう、したい、と強く思う。思いは言葉に・言葉は行動に、歯科衛生士という素晴らしい立場を最大限に活用して、社会貢献できれば私も幸せです。

研修をサポートしてくださった、熊谷先生・講師の方々・オーラルケアの皆様・名鉄観光の方々・1週間本当にご苦労さまでした。ありがとうございました。また必ずスウェーデンに戻ります。その時は日本の歯科医療も負けていない！と胸を張って報告ができることを夢みて日々努力したいと思います。